

NHO フェローシップ プログラム申請書

1. 研修プログラム名； 呼吸器内科研修プログラム

病院名：四国がんセンター

2. 診療科（専門領域）：呼吸器内科

3. コースの概要

留学期間中、呼吸器内科にて肺癌や悪性胸膜中皮腫等の胸部悪性腫瘍を中心とした症例や、癌患者において発症する間質性肺炎をはじめとした各種呼吸器疾患の症例を経験する。

4. 短期目標

呼吸器疾患の診断に必要な基礎的知識，検査法，また疾患，重症度に応じた治療法の基本、呼吸器内科医として必要な手技を修得することを目的とする。癌患者では各種合併症を有していることも多く、罹患臓器が全身におよぶため，広く内科全般に渡る基礎的臨床力の取得や緩和治療もできることを目標とする。

5. 長期目標

内科学の専門知識と幅広い臨床能力を取得し、内科医としての全人的な育成や、癌患者に対する診療を行う上で中心的役割を担う人材となれる素質を養うことを目標とする。その他、内科診療における問題点を発見、解決する能力を身につける。

6. 取得手技

<基本診療手技の習得>

問診、理学所見、患者説明、化学療法末梢ルート穿刺、抗癌剤漏出に際しての処置など

<知識の習得>

呼吸器悪性腫瘍 基本的な診断から治療方針の決定、胸部レントゲン/CT/MRI の読影、緩和治療、入院管理、治験・臨床試験全般に関する知識の習得

<検査・処置>

胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、気管支内視鏡検査、EBUS-TBNA、気管支内視鏡ガイドシース法、気管支内視鏡処置（気管内ステント留置、EWS など）、中心静脈ポート留置、心嚢ドレナージなど

7. 研修期間：6ヶ月

8. 募集人数：2名

9. 診療科の実績

主要疾患	入院数（年間）
肺癌	1,180
悪性胸膜中皮腫	23

10. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 4名

診療科研修の指導にあたる医師 4名

主として研修指導にあたる医師の氏名 上月 稔幸（経験年数 25年）

11. コンセプト

当科はがん専門病院の呼吸器内科として、肺癌をはじめ、胸腺腫・胸腺癌、胸膜中皮腫などの胸部悪性腫瘍の診療に携わります。

その他、一般呼吸器内科医として、感染性肺炎、COPD、気管支喘息、間質性肺炎急性増悪、薬剤性肺障害、放射線肺炎、肺塞栓症などの診断・治療や、胸部異常陰影や縦隔リンパ節腫大の精査の結果、サルコイドーシスや、結核・非結核性抗酸菌症、肺 Langerhans 細胞組織球症などの症例も経験可能です。

診断手技に際しては、気管支内視鏡検査を術者として経験可能で、EBUS-TBNAについても経験して頂きます。また、気管支内視鏡検査の際には、病理科のご協力のもと迅速細胞診（ROSE）も行っており、これら技術についても経験して頂くことが可能です。

胸部悪性疾患の治療に関しては、呼吸器内科だけでなく、呼吸器外科や放射線診断科、放射線治療科、病理科とも連携しながら、症例毎に最適な治療を行うよう心掛けており、当科ではがん薬物療法、化学放射線療法、放射線療法などを主に担当しております。

また当院は緩和ケアも充実しており、緩和ケア科の積極的な介入のもと、がんによる肉体的・精神的な苦しみを緩和するよう心掛けております。そのため当科で研修しながら、緩和治療についても経験して頂くことが可能です。

その他、がん診療に必要な内科的処置（胸腔穿刺・ドレナージ、心嚢ドレナージ、中心静脈ポート留置など）についても経験可能です。

<当科で担当する主な疾患・治療>

肺癌 : 術前・術後の補助化学療法、根治的放射線併用化学療法、
切除不能進行がん・術後再発がんに対する化学療法
悪性胸膜中皮腫 : 化学療法
胸腺腫、胸腺癌 : 化学療法、化学放射線療法

<地域性と社会的使命>

当院は愛媛県の都道府県がん診療拠点病院やがんゲノム医療連携拠点病院に認定され、愛媛県のがん診療の中核を担っております。

当院は愛媛県のみならず、四国全域から患者さんが来院され、治療に関してもガイドラインに則った治療のみならず、数多くの治験や臨床試験にも積極的に取り組み、治療法の開発やエビデンスの創設にも積極的に取り組んでおります。

その結果、未承認薬剤や、数年先に標準的治療となる可能性を秘めた治療を経験して頂くことが可能です。

<教育方針>

すべての胸部悪性腫瘍に対し、自ら診断・検査・患者さんへの説明・治療・有害事象対応が行えることを目標としております。

そのため、研修中は治療方針についても主体性を持って決めて頂き、胸腔ドレナージや気管支内視鏡検査などの処置も自ら経験して頂きます。

また、カンファレンスや回診を通して知識を深め、また週1回の抄読会を通して、最新のトピックスについても触れて頂きます。

研修中はできるだけ多くの症例を経験して頂き、将来、胸部悪性腫瘍の診療の中心を担うことができる人材になれるよう研修を積んでもらう教育方針をとっております。

12. 共通領域研修について

(月1回) 院内全体全科合同がんボード
(他科のカンファレンスも自由に参加できます)